

科学技術の潮流

(294)

JST 研究開発戦略センター

科学技術の進展に伴い、研究の分野やテーマは多様化・高度化し、最先端技術を駆使した研究機器の重要性がより高まっている。さらなる革新的な研究成果を生み出すには、そうした機器の技術開発から製品化、市場導

入までのサイクルを効率的に回すことが欠かせない。

産学官の協力

日本ではこれまで、研究機器の開発や調達、利用促進、共用など、さまざまな施策が産学官の協力により展

研究基盤のエコシステム形成②

コミュニティで機器開発

要な研究機器を迅速に導入できるかどうかは重要な課題である。し



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センターフェロー(横断・融合グループ) 杉村 佳織

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士課程修了。企業でのAI(人工知能)研究開発を経て24年10月よりJSTに出向。研究基盤・研究インフラに関する研究開発戦略立案を担当。博士(理学)。

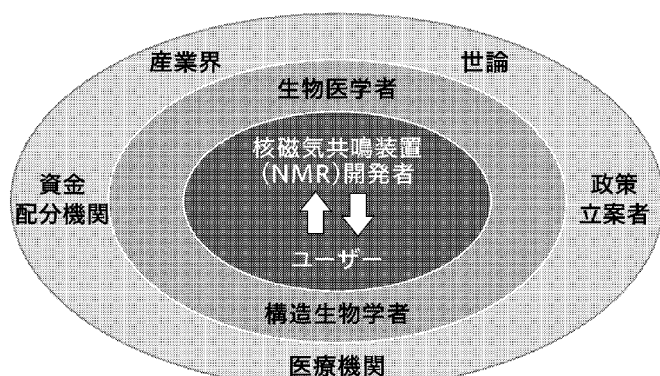
協調する欧州

更新は10年に1度あるかないかで頻繁に起きることではなく、かつ市場規模も限られ、開発する企業にとつては持続的なビジネスに

されたBIO-NMRプロジェクトでは、核の階層である関連分野の研究者に展開されその研究成果はさらに外側の階層である社会へと還元されるとい

して完成した機器は次構造となっている。幅広いステークホルダー全体でプロジェクトの目的を共有する努力を重ね、その成果を抑えることができる。こうした取り組みは関連産業の成長も促し、例えばプロジェクトに参加したNMR開発のトップ企業であるBrukerにおいては持続的な開発投資と長期的な成長を支える基盤にもなっている。

BIO-NMRコミュニティの広がり



<https://cordis.europa.eu/project/id/261863/reporting>より、作者が一部改編して作成

な初期投資という挑戦を伴いながらも市場導入されない、もしくは性能が期待を下回るなどのリスクを最小限に抑えることができる。こうした取り組みは関連産業の成長も促し、例えばプロジェクトに参加したNMR開発のトップ企業であるBrukerにおいては持続的な開発投資と長期的な成長を支える基盤にもなっている。

(金曜日に掲載)